

古典を読んでみよう ④

俳句 はいく
①

まつおばしろう
松尾芭蕉

古池や 蛙とびこむ 水の音

ふるいけや かわずとびこむ みずのおと

春

かわず
「蛙」は、かえるのこと。

閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声

しずかさや いわにしみいる せみのこえ

夏

五月雨を 集めてはやし 最上川

さみだれを あつめてはやし もがみがわ

夏

さみだれ
「五月雨」は、つゆ梅雨の雨のこと。

秋深き 隣は何を する人ぞ

あきふかき となりはなにを するひとぞ

秋

荒海や 佐渡に横たふ 天の川

あらうみや さどによこたう あまのがわ

秋

まつおばしろう 松尾芭蕉 えどじだい はいじん 江戸時代の俳人。